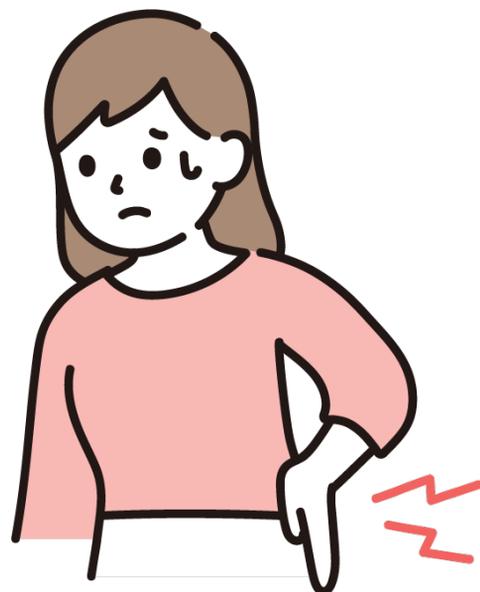


リウマチ性疾患を疑う腰痛

腰痛はありふれた症状

腰痛はありふれた症状であり、一生のうち80%以上の方が経験するとも言われています。

その原因は、大動脈や腎臓、尿管などからくる稀なものから、いわゆるぎっくり腰（急性腰痛症）や椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症といったものまで様々です。



比較的頻度の高いぎっくり腰、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などは筋骨格系に原因がある整形外科的な腰痛といえますが、それらとは違い筋骨格に炎症が起きて生じる痛みを炎症性腰背部痛と言います。リウマチ性疾患で見られることがあり、以下の特徴があります。

炎症性腰背部痛の基準 (Ann Rheum Dis 2009;68:784-788)

- 40歳未満の発症
- 潜行性発症（急ではなくじわじわ痛みが出現）
- 運動により改善
- 安静で改善なし
- 夜間の痛み（起床で改善）

上記、5項目中4項目を満たせば炎症性腰背部痛とする（この基準にはないが、3か月以上持続することも特徴）

想起される疾患

炎症性腰背部痛は、脊椎関節炎と言われるリウマチ性疾患で見られることが多いです。脊椎関節炎の中は、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、反応性関節炎、炎症性腸疾患関連関節炎、分類不能脊椎関節炎が含まれます。

炎症性腰背部痛に当てはまる痛みが続くようなら、脊椎関節炎の可能性があるため医師に相談してください